［認知症対応型共同生活介護用］

1.　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成２１年１２月４日

【評価実施概要】

事業所番号	０７２５００７３０
法人名	特定非営利活動法人 社会福祉研究会なかよし
事業所名	グループホーム ねむのき
所在地	栃木県大田原市北滝１９２－１ （電 話）０２８７－５４－２２４７

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町１１８－１８９		
訪問調査日	平成２１年１１月１３日	評価確定日	平成２１年１２月４日

【情報提供票より】（平成２１年８月２日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成１６年３月１日	
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計　９ 人
職員数	８ 人	常勤　４人，非常勤　４人，常勤換算　６.７人

（２）建物概要

建物構造	木造造り
	１階建て

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	８,０００　円		その他の経費(月額)	水光熱費１５,５００円 日用品・おむつ等 実費
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	２５０ 円	昼食	４００ 円
	夕食	３５０ 円	おやつ	昼食に含まれている
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要（平成２１年８月２日現在　）

利用者人数	９ 名	男性	２ 名	女性	７ 名
要介護１	１ 名		要介護２	５ 名	
要介護３	１ 名		要介護４	２ 名	
要介護５	０ 名		要支援２	０ 名	
年齢	平均	８７ 歳	最低	８３ 歳	最高　９２ 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	磯医院、吉成歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームでは、「ゆっくり、一緒に、楽しく、地域の人と」をモットーとしており、朝から入居者と職員が一緒に歌う歌声が響いていた。医師が毎週往診をしてくれることや訪問歯科診療を利用することなど、家族の通院介助の負担軽減にも努めている。ホームは田園地帯に位置し、近くに住宅が少なく、地域との結びつきは今のところ強くはない。しかし、管理者がかつて福祉関係の行政職員だったということもあって、地域からの信頼を得ており、小学校の評議員を委嘱された。大田原市ではグループホームなど地域密着型サービスを地域の福祉拠点として発展させたいと考えており、当ホームも、地域住民への相談援助や助け合い活動を含めた、さらなる地域貢献が期待されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価を受けて改善に取り組んだ目立った事例は見受けられない。外部評価の意義を再認識し、職員全員が自己評価に携わり、日々のケアの振り返りやサービスの質の向上･改善に活かす取り組みを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は管理者のケアマネージャー継続研修の時期と重なり、思うように進められなかった。また、職員からはアンケートの形で自己評価の項目に対する意見を募ったが、積極的な意見が出されず、管理者が自己評価をまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は2ヶ月に1回、第4木曜日に実施している。市職員から「地域の拠点としてグループホームの必要性」「地域の助け合い活動への参加」などの説明があり、包括支援センターからの要望で、12月に小学校で開催される「認知症サポーター養成講座」を協賛することなどが話し合われた。昨年から課題となっていた入院中の待機金は設けないこととし、退居の時期をあまり遅らせないようにするとの結論に至った。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族が訪問した折などに話をするが、家族からの意見や苦情などが聞かれることは少ない。管理者は福祉関係の行政職員の経験を活かし、家族からの年金や高額医療費、歯科診療、障害者手帳の受給、寝たきりになったときの対応、などの相談に応じている。また、入居者のホームでの暮らし方がまちまちに見えるという家族の懸念に対して、それぞれの状態に合わせて個別対応をしているためである、と家族に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	入居者の知り合いの紹介などで、毎月ボランティアが訪れ、マジックや歌を披露してくれる。そのようなときには近隣へも案内を出しているが、秋は地域柄農作業が忙しく参加が得られなかった。自治会への加入はしていないが、回覧板を回してもらったり、ごみステーションを一緒に使わせてもらっている。地域の行事への参加はないが、近くの小学生の訪問があり、今年度からは管理者が小学校の評議員に任命されている。

2.　評　価　結　果　（詳　細）

※ ▒ は、重点項目。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所のモットーとして「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」「地域の人と」を掲げ日々のケアにあたっている。また、「運営方針」の中に示した「高齢者をしあわせに」「人間らしく暮らせるように」するための「認知症を和らげるコツ10カ条」は、介護者の心構えとして事務室や相談室に掲げられている。	○	運営方針には「痴呆」という言葉が残されている。「認知症」に変更すると共に、契約書が利用者や家族にとっては、字間･行間が詰まって大変読みにくいので、見直していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	モットーの「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」「地域の人と」と記載されたポスターと運営方針が、玄関･事務室･リビングの廊下などに掲示されており、職員や家族も目にすることができる。また、月1回開催されている職員会議の中でも話し合いがされている。	○	リビングや廊下に、入居者の絵や作品に混じって運営方針などが一緒に掲示されいるので、より目に付くような掲示位置の工夫、配慮などを期待する。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の知り合いの紹介などで、毎月ボランティアが訪れ、マジックや歌を披露してくれる。そのようなときには近隣へも案内を出しているが、秋は地域柄農作業が忙しく参加が得られなかった。自治会への加入はしていないが、回覧板を回してもらったり、ごみステーションを一緒に使わせてもらっている。地域の行事への参加はないが、近くの小学生の訪問があり、今年度からは管理者が小学校の評議員に任命されている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者のケアマネージャー継続研修の時期と重なり、思うように進められなかった。また、職員からはアンケートの形で自己評価の項目に対する意見を募ったが、積極的な意見が出されず、管理者が自己評価をまとめた。前回の外部評価を受けて改善に取り組んだ目立った事例は見受けられない。	○	外部評価の意義を再認識し、職員全員が自己評価に携わり、日々のケアの振り返りやサービスの質の向上･改善に活かす取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、第4木曜日に実施している。市職員から「地域の拠点としてグループホームの必要性」「地域の助け合い活動への参加」などの説明があり、地域包括支援センターからの要望で、12月に小学校で開催される「認知症サポーター養成講座」を協賛することなどが話し合われた。昨年から課題となっていた入院中の待機金は設けないこととし、退居の時期をあまり遅らせないようにするとの結論に至った。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の運営推進会議に参加があるほか、毎月開催されている市主催の介護事業者連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会に管理者が参加し、市からの連絡事項を受けたり、職員同士の情報交換を行っている。市には、サービスの質の向上に向けて施設系の計画作成担当者向け研修を要望している。また、全国レベルの先進事例から学ぶことも多い。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料支払いの為に毎月家族が来所し、そのおりに入居者の生活の様子などを直接伝えている。ホーム全体での暮らしぶりを伝えるお便りはなく、来年度には作成し全家族に配布したいと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した折などに話をするが、家族からの意見や苦情などが聞かれることは少ない。管理者は福祉関係の行政職員の経験を活かし、家族からの年金や高額医療費、歯科診療、障害者手帳の受給、寝たきりになったときの対応、などの相談に応じている。また、入居者のホームでの暮らし方がまちまちに見えるという家族の懸念に対して、個々の状態に合わせて個別対応をしているためである、と家族に説明している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	永年勤めた主任が退職した際には、入居者･家族からも「どうしてやめてしまったのか」との問いが多く聞かれた。しかし、離職による不都合を職員は感じてはいない。	○	永年勤めた主任の退職後、当ホームへ入職後の年数が短い職員ばかりになってしまった。職員間では不都合を感じていないとのことだが、グループホームにおいては職員と入居者の馴染みの関係が支援する上で欠かせない。職員の異動に際しての入居者、家族への対応、説明の仕方、入居者一人ひとりに対する影響などについて、職員全員で話し合っていただきたい。
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加している。今後は、事業所内においても認知症の知見を深めるために、認知症についての対応が掲載されたDr.杉山の「知っていますか？認知症」記事を利用して研修を行っていく予定である。新入職員は主任が実地で指導していたが、主任が退職した後は仕事をしながら自分で覚えた、ということである。	○	新入職員の育成などが行き届いていない面も感じ取れる。今後は認知症についての内部研修の機会を通して、新入職員のみならず全職員で日頃のケアをふりかえり、サービスの質の向上に向けた努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の介護事業者連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会に参加し意見交換や情報交換を行っている。主に管理者が出席していたが、今後は職員の参加を促し他事業所との交流が図れる機会を作っていきたいと検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの前には必ず見学してもらい、雰囲気を感じてもらってから本人の意思を確認し、入居の手続きを進めている。入居後は、レクリエーションへの積極的な参加を促し、ホームの環境に馴染めるように対応している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に食事作りを行い、料理が苦手な職員が料理のレパートリーや味付けなどを入居者から教えてもらうことがある。食事やレクリエーションなども一緒に行い、同じ時間を共有して過ごしている。入居者の洗濯物は自分でたたんでもらうなど、出来ることは自分で行ってもらっている。	○	職員主導になりがちなケアの側面も見受けられるため、職員が互いに見直す機会が作れるようにしていただきたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向で本人が不本意のまま入居した方がいた。独居生活が長く、集団生活が困難な方だったため、徘徊･帰宅願望が強く精神状態も不安定になってしまい、家族との話し合いの結果、本人の意思を尊重し自宅に戻った例があった。それ以降、本人の意思や入居に関して納得の有無が重要と考え、入居に際し本人の納得の有無の確認を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居前には必ず計画作成担当者が自宅を訪問し情報収集を行いケアや介護計画書作成のヒントとしている。毎朝の申し送りやカンファレンスの際に入居者の様子を報告し、対応などの統一を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の更新時期に合わせて介護計画書の見直しを行っている。状態の変化により計画書の見直しをした事例がないとのことだが、以前には、全職員がある入居者の状態変化を察知して、計画書の見直しの前に介護認定の変更申請を行い、計画書も見直したことがある。入居者の状態や状況の変化に応じて現場でケアを変えることはよくあるが、計画書の見直しの方は遅れてしまうこともある。	○	入居者の身体や精神状態は変化しやすい為、職員一人ひとりが様子の変化に気づき、カンファレンスを開いた上で計画書の変更を行い、計画のもとに統一したケアが出来るよう取り組んでいただきたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームには看護師は配置されていないが、入居者の主治医が毎週往診をしてくれ、さらに訪問歯科診療を利用していて、日常の健康管理ができている。管理者がかつて福祉関係の県職員であったために、福祉制度に精通しており、入居者や家族の相談に応じている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの協力医院の医師が週1回往診してくれている。また、別の医師を主治医にしている入居者の場合も、その医師がホームまで往診してくれている。処方薬は薬局が届けてくれる。さらに、訪問歯科診療を利用するようになったので、家族が付き添って通院するのは精神科等の一部の診療科のみとなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、契約時に重要事項説明書などで「常時、医療行為が必要になった場合は退居」になることを示し、本人･家族には納得していただいている。また、内科医が毎週往診しているので、医師の判断を重視している。病状が悪化して緊急、または医師の判断で入院というケースが多い。別の介護施設に移ることは少ないが、そのような場合でも、退居先が決まるまでは引き続きホームで支援し、安心して過ごしてもらっている。	○	家族にとって、いつまでホームで面倒を見てもらえるかは重大な関心事であるので、重度化や終末期の対応についてのホームの方針や考え方を、契約時だけでなく折を見て本人･家族と話し合っておく必要がある。また、ホームの指針などを記載した確認書式などを整備することも検討していただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけについては、なるべく敬語を使うようにしているが、入居者によって受け取り方や反応が異なることがあり、気分を害することのないように気をつけている。記録は事務所カウンターの内側で記載し、入居者の目に触れないようにしている。個人ファイル類は、鍵の掛かる棚ではなく、カーテンで目隠しした棚に保管している。	○	入職期間の短い職員が多いなか、プライバシーの保護のみならず、個人の尊厳を傷つけるような言動がないか、日頃の支援を振り返り、ホームとしての支援の質を高めるために継続的な話し合いをしていただきたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一部の入居者は自分のペースで自分の過ごしたいように生活しているが、全体的にみると身体能力の低下が進み、入居者自らがどのように過ごしたいかの希望を表出することが少なくなってきている。のんびりした時間の流れではあるが、生活のメリハリを付けるために、スケジュールに沿った支援が多くなっている。	○	ホームには週間のスケジュール表が張り出されており、ホーム側の規律や流れに沿った生活が進められているように見受けられる。レクリエーションの内容や方法を創意工夫し、入居者一人ひとりの希望に沿った支援が充実するよう、今一度、職員全員で検討することを期待する。
⑵ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	JAの食材配送を利用しているが、それだけでは足りないので、買ってきた野菜などを追加して調理している。調理や配膳、片付けなど、一部の入居者がエプロンを掛けて手伝っている。職員もテーブルにつき一緒に食事をしながら、声かけや介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	火曜･木曜･土曜の午後が入浴時間と決められている。一人ずつ順番に入り、湯船に長くつかると寝てしまうことがあるので、危険がないように気をつけている。近くの城址公園にある「五峰の湯」の足湯に入りに行くこともある。	○	週間のスケジュールが立てられていて、曜日ごとの予定にそって暮らしが進んでおり、規律正しく、安定した生活ぶりがうかがえるが、一人ひとりの希望にそった入浴支援ができているかどうかをあらためて検討していただきたい。
⑶ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自発的に食事や家事、買い物等に参加している入居者がいるほか、午前中は体操や歌、午後は曜日ごとに風船バレーなどのレクリエーションを実施し、入居者の気晴らしや楽しみとなっている。近くの観光地、御亭山公園やぽっぽ農園、黒羽城址公園等にドライブに行くこともある。また、入居者によっては、以前に住んでいた地区の敬老会に招かれたり、友人が訪ねてきたりして、関係が途切れないような支援も見られる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	水曜日と金曜日、日曜日は買い物や外出日に当てている。ホームの買い物や入居者の買い物に出かけるが、外出を誘っても「買ってきてちょうだい」と頼まれることも増えて、日常の外出は一部の入居者に偏る傾向がある。天候を見て散歩に出かけるようにしており、歩行が困難な入居者はかわりに庭で日光浴をしている。入居者によっては、送り迎え付きの馴染みの美容室でパーマ等をかけてもらっており、それ以外の入居者は職員に散髪してもらっている。	○	外出が少ないと感じている家族もいる。重度化が進み外出希望が出なかったり、全員一斉の外出は職員配置の関係で困難だったりと難しい面もあると思うが、少人数単位でもなるべくどの入居者もまんべんなく外出ができるよう、工夫をしていただきたい。
⑷ 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実施していたが、入浴支援中の見守りが手薄になったときに、外へ出て行こうとした入居者がいたために、入浴中は玄関に鍵をかける措置をとった時期があった。現在は、入浴中は管理者が見守りに携わることにして、なるべく鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災･避難訓練は年1回実施しており、近く、消防署の指導を仰いで実施することになっている。那珂川からは離れており、平地に立地していて、防災上の危険地区には指定されていない。管理者の自宅が敷地内にあり、夜間、何かがあればすぐに駆けつけられるので職員は安心である。スプリンクラーの設置義務はないので予定はしていない。そのかわり火災を出さないためにホーム内は禁煙としており、今後、台所の熱源をIHヒーターに取り替えることを検討している。	○	職員の入れ替わりが多いので、防災訓練の経験がない職員もいる。年1回の訓練だけに頼ることなく、避難誘導路の確認や机上のシミュレーション、事業所独自の避難訓練を定期的に実施して、どの職員も同じように防災意識が持てるようにしていただきたい。
⑸ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	JAの食材配送を利用しているので、とくに栄養士の指導を受けることはないが、家庭的なバランスのとれた献立となっている。食事の始まりと終わりには入居者の当番が「いただきます･ごちそうさま」の声かけをしているが、比較的時間を長く取っているので、食べるのが遅い入居者も概ね食べ終えることができている。水分は食事時、午前午後のおやつ時以外にも入浴後に摂取するようにしている。自室にポットや急須を用意して好きなときに飲めるようにしている入居者もいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり ⑴ 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを取り囲むように居室や事務室、台所等が配置されたコンパクトな設計であるため、リビングが比較的広く感じられる。窓の少ないリビング空間の明るさを補うために天窓がある。掃き出し窓に面した部分には畳を敷いてテレビやソファなどを配し、のんびり過ごせる空間をつくっている。事務室と台所はリビングに面してオープンカウンターの造りとなっている。台所はドアで閉じることができるが、中は広くつくられているので、入居者が調理や片付けを一緒に行うのに都合がよい。リビングや廊下の壁には行事の写真や小学生の手紙、入居者の絵などが飾られ、入居者の思い出や話題を引き出す材料となっている。	○	壁には様々な作品や写真が飾られているが、ともすると雑然として落ち着かない雰囲気になるので、飾り方などを工夫することを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台と1畳分のクローゼットが作り付けられており、ベッドと引き出しダンスが用意されている。入居者は好きな色の防炎カーテンやテレビ、机を設置し暮らしやすいようにしている。直通の電話を引いている入居者もいる。壁には家族の写真や自分の作品、往年親しんだ楽器を飾り、それぞれが昔の生活ぶりを偲ばせる部屋の様子となっている。いつでも好きな飲み物が飲めるようにポットや急須などが用意されている居室や、家族の配慮で、入り口に犬の置物を置いて自分の部屋とわかるようにしているケースもある。		